

ケース①：入浴動作の自立支援に向けた動画・画像の共有

目標

- ・ シズケアかけはしを活用し、動画や画像情報をチーム内で共有することで、利用者の現状（動作方法の確認）、指導方法や環境調整の確認を行う。

事業の概要

・ 1.会議の開催

システムの説明：シズケアかけはしを利用するための利点・手順の確認。

モデルケース対象となりうる、利用者の選定、どのような形で活用できるかを施設間（チーム）で検討した。

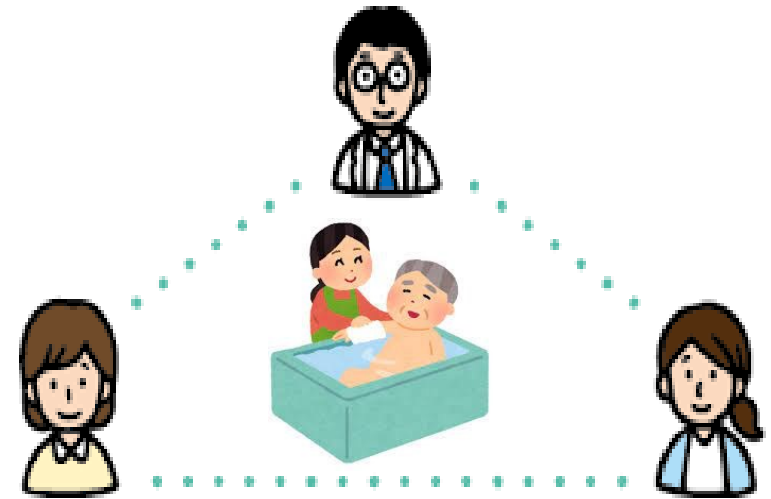
・ 2.動画や画像を使用して情報共有（利用者様への関わり）

動作確認をするための連絡と調整を実施。

動画・画像で入浴、移動動作と環境確認、意見交換を実施。

・ 3.情報共有を行ったチーム内職種

・ ケアマネジャー ・ ヘルパー ・ 作業療法士



【経過】 5ヶ月間回復期リハビリテーション病棟にて入院加療後、退院前訪問指導を実施し自宅へと復帰。膝の痛みがありADL動作は不安定さを残しており、特に入浴動作が課題として残っていた。

【評価】 筋力：両脚ともに日常生活に支障をきたす筋力低下なし
関節可動域：両膝に制限あり(特に右が強い) 、円背
痛み：歩行時に右膝痛が強い

【基本動作】 移動：（自宅内）T字杖自立 伝え歩き・独歩自立
広い環境では見守りが必要
（屋 外）歩行器見守り
段差昇降：片手すり・T字杖見守り(20cmまで) 両手すり見守り(30cmから)

【日常生活動作】

排泄動作までは自立だが、移動面での不安が残存し、自宅環境での入浴動作は監視が必要。

患者基本情報	提供情報	在宅チーム情報	情報を送る
No.2 : XXXXXXXXXX 撮影ビデオ			
タイトル	XXXXXXXXXX 撮影ビデオ		
情報共有範囲	在宅チーム		
フラグ	無し		
種別	画像		
メモ	XXXX 様入浴動作		
ファイル名	 20211220_140841.mov (4,468KB)		

動画（スナップショット）にて入浴動作について移動を含めて動作の共有を実施。
安定していると判断したポイントを説明。

更なる安定の獲得に対して、ヘルパーより環境面での提案。（画像）

やりとりを確認したケアマネジャーから福祉用具業者を交えた福祉用具の選定について提案があり業者を交えて作業療法士が動作確認を実施する。

患者基本情報	提供情報	在宅チーム情報	情報を送る
No.3 : 踏み台のサンプル			
タイトル	踏み台のサンプル		
情報共有範囲	在宅チーム		
フラグ	無し		
種別	画像		
メモ	XXXX様の浴室（洗い場）へ上がるところの段差解消について、手元にある踏み台を参考としてご紹介します。写真の踏み台は、木製で幅約45cm×奥行き約30cm×高さ約10cmです。 水を扱う場所なので、腐食しない素材をご希望される場合もあろうかと思えます。ホームセンター等で「踏み台」「すのこ」の他に踏み台昇降運動用の「ステップボード」なども参考に高さ、幅、奥行き、価格を比較していただきXXXX様の意向にそったものを選んでいただければと思います。 よろしくお願いいたします。		
ファイル名	 踏み台.JPG (3,286KB)		

環境を再整備して再度動画の再共有を実施。

安全に入浴が可能となる

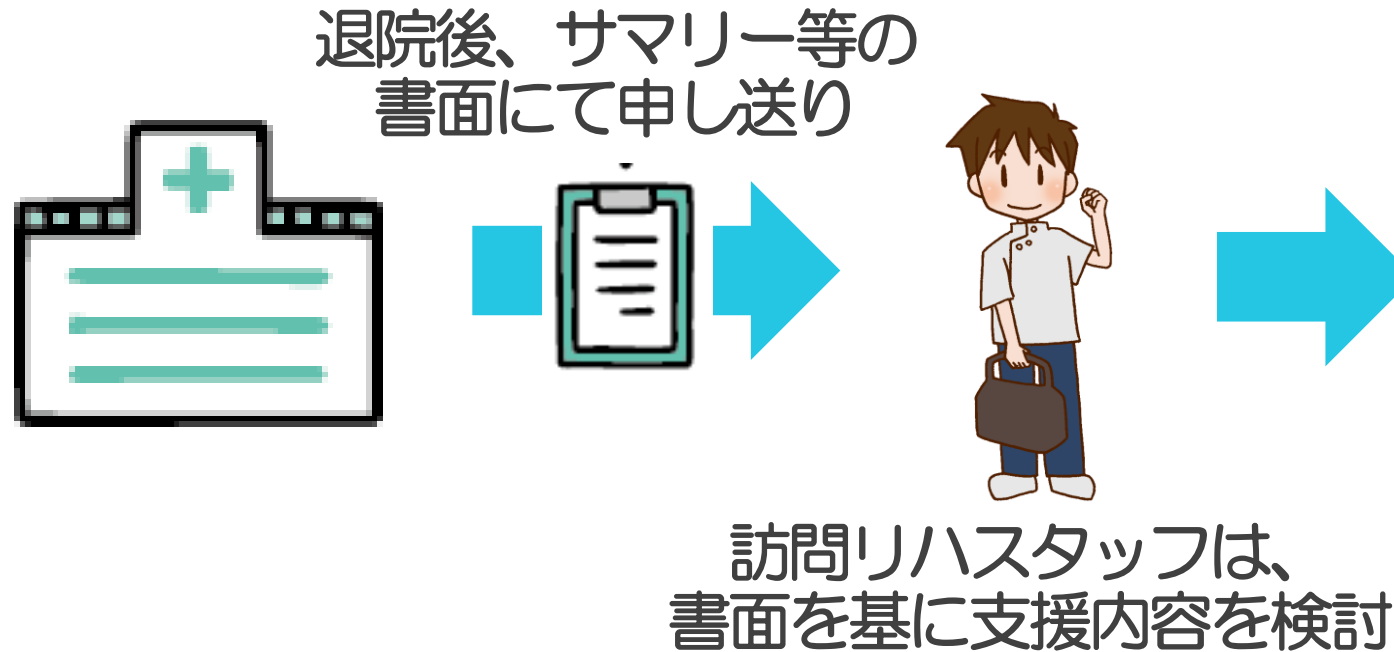
シズケア＊かけはしを使用した結果

- 浴室までの移動動作を情報共有後、更なる安定のため、段差昇降時に対してヘルパーからステップ台の提案があった。
- ケアマネジャーから福祉用具の選定についての提案があり、福祉用具業者、作業療法士で選定することとなった。
- 福祉用具業者からご家族様に段差解消方法について3点提案し、ご家族様の意向でご家族様が段差解消を実施。
- 段差解消後、動画にて情報共有を行い更なる動作の安定につながった。



ケース②病院退院後に、嚥下造影検査（VF検査）を訪問リハと共有し、自宅で食事が安全に食べられたケース

従来の退院後の患者情報の情報収集方法



自宅で訪問リハを実施



課題

- 評価者によって検査の読影能力や観察点が異なる為、書面の伝達のみでは不十分

正常



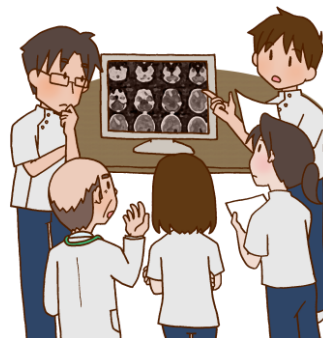
誤嚥



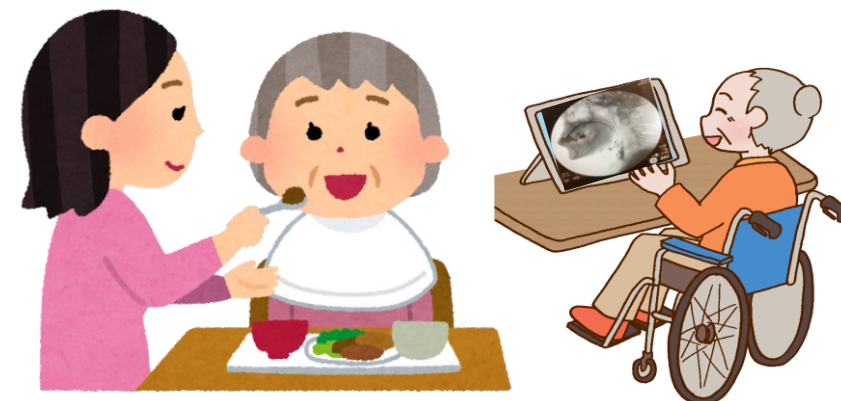
ケース②病院退院後に、嚥下造影検査（VF検査）を訪問リハと共有して 自宅で食事が安全に食べられたケース

シズケア＊かけはしを使った場合

退院後、動画を共有



自宅で訪問リハを実施



訪問リハスタッフは、
動画を基にアプローチ内容
を検討実施

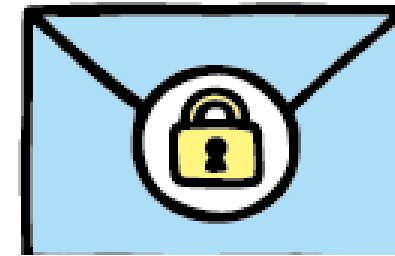
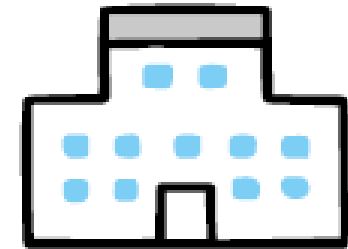
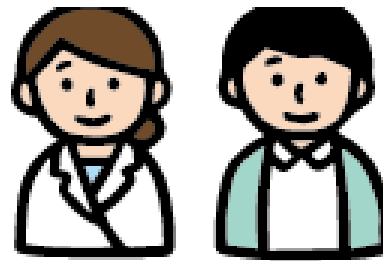
訪問リハスタッフは、
実際の動画を基に本人・
家族指導ができる

効果

- 動画を直接共有することで、正確な能力の共有が可能となる。
- 家族指導の際に、嚥下の一連の動作を可視化して説明を行うことが可能となり、ご家族の理解が得られやすくなる。

ケース③セキュアメールを用いた情報交換でケアマネジャーのアセスメント、ケアプランのサポートがスムーズになったケース

セキュアメールとは



セキュアメール

セキュアメールの送信はメールアドレスの入力が不要で、施設やユーザ個人を宛先に選択するだけの操作です。ユーザ間での相談や問い合わせなどの連絡、カンファレンスの日程調整など、秘匿性の高い情報を安心安全な環境のもとやりとりができます。

介護予防・日常生活支援総合事業のサービスの中に、ケアマネジャーから要支援者の支援内容に関する相談やアセスメントをサポートする取り組みが行われている。

介護予防アセスメント同行訪問 を利用しませんか？

利用者が自分の課題に気付き、そこから「したい」「できるようになりたい」という意欲につなげ、実現可能な目標設定・目標達成に向けた行動化ができるようなアセスメントのお手伝いをします。



対象者 新規に「要支援1」「要支援2」「事業対象者」と認定された人

- ・通所サービス希望者
- ・住宅改修希望者
- ・福祉用具貸与または購入希望者 等

利用料 無料

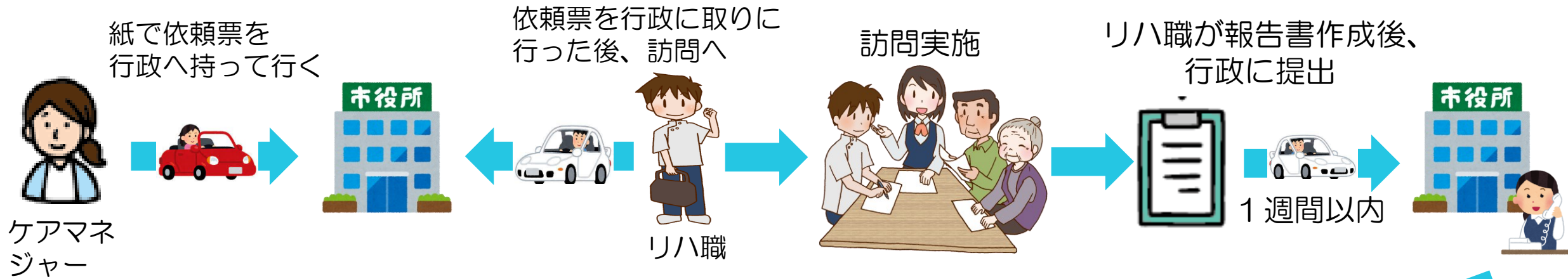
実施内容

- ① 理学療法士が本人に対して自宅でできる運動指導や環境整備へのアドバイス
- ② 介護予防ケアプラン作成において、効果的な支援を理学療法士と一緒に検討
- ③ サービスを利用する前に自立支援にむけてのビジョンを本人、プランナーと共有。
- ④ 適切なサービス、利用期間、目標等の提案をプランナーと一緒に検討



●本人宅を同行訪問し、プランナー、リハビリ専門職と一緒にアセスメント！

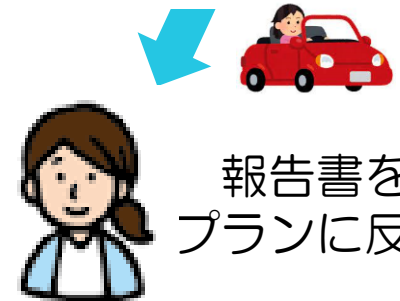
セキュアメールを使用前



課題

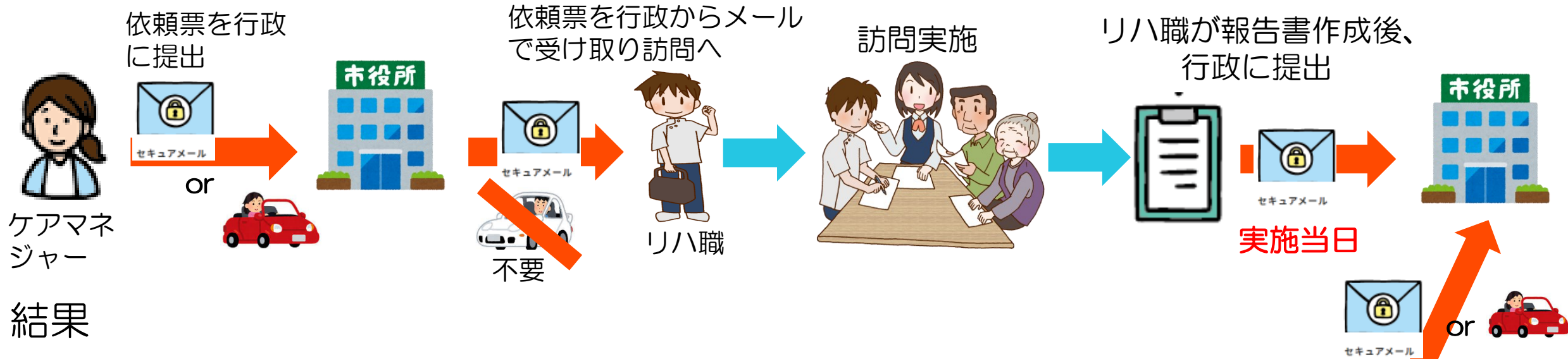
- ケアマネジャーは、依頼票を提出するためには行政へ持って行かなければならない。
- リハ職は、依頼票を行政に取りに行かなければならない。
⇒直前の依頼に対して苦慮することが多い。
- 訪問後の報告書を行政に提出しに行かなければならないため、ケアマネジャーが受け取るまでに1週間以上かかる。
⇒報告書がプランに活かされにくい。

行政からケアマネジャーに連絡し、ケアマネジャーが行政に取りに行く



報告書をプランに反映

セキュアメールを使用後



□ リハ職が依頼票を取りに行政へ出向く必要が無くなった。

⇒直前の依頼に対応しやすくなる。

□ 訪問後の報告書を当日に行政へ提出ができ、ケアマネジャーが受け取るまでの期間が短縮。シズケア＊かけはしに加入しているケアマネジャーは行政に出向かずに報告書を受け取れる。

⇒報告書がプランに活かされやすくなる。

行政からメールで
ケアマネジャーに
連絡する

最短で当日
受け渡しが可能



報告書を
プランに反映